

広報ただみ診療所

朝日診療所
医師 もり 森 ぶゆと 冬人



「あきらめたら、そこで終了だから」

今日は私の決意表明です。

2015年度に会津中央病院からの4ヶ月交代の看護師派遣をお願いしているので、この5年間、看護師は不足しています。不安に思う方もいると思います。「看護師がいないから、入院や夜間の急患受け入れ、訪問看護などを止める」と、数年後にそうなってしまっても残念ながら私は驚きません。しかし田舎だから看護師が集まらないとあきらめますか？只見が田舎なのは昔からです。過去の町民はそれでも医療・福祉の充実のため努力したから「今までの診療所」があるのでしょうか。「診療所が救急車もみて入院もみて、看護師も医師も頑張っていて、こんなに凄い所だと知りませんでした！」町外から来たある看護師が言いました。学生や研修医にも似た事を言われます。朝日診療所には特有の魅力があります。

5年先でも約3800人の町民が暮らしています。訪問看護がないと自宅の生活が困難になる障害者・高齢者を私は知っています。数は少

なくても深夜の急患で助かる人を、独居で足腰が悪くちょっとしたことで町外の病院へ行く事ができない人を、死ぬまで只見で家族と過ごしたい人を私は知っています。

ケアマネージャー、保健福祉課の皆さん、介護施設の方々、「隣の人の様子が変わりからとりあえず診療所に連れてきた」と世話を焼いてくれる町民の皆様。看護師はもちろん大勢の人の力を借りて、私は仕事をさせてもらっています。

町民が、役場職員が、診療所職員があきらめたら「今までの診療所」は無くなるでしょう。私も応援していた只見線は1-2年で全線開通します。その頃、診療所をどうしたいですか？

朝日診療所は令和2年4月1日から総合診療科を名乗る予定です。今は看板が変わるだけだとしても、「朝日診療所は、医療によって地域の全ての住民の安心した暮らしに貢献します」という診療所の理念を将来達成できるように、私もあきらめず頑張ります。今年1年よろしくお祈りします。

移住コーディネーターとして

只見町移住コーディネーター
なまため ひろし
生天目 博



「移住コーディネーターのウォーキング」

昨年の秋から昼休みに役場の周りを歩いています。いわゆるウォーキング、この冬は雪が少ないので、いまも続けています。両腕を大きく振り、少し速足で大股で歩くと、徐々に汗が出始め、気分が爽快になります。大きなストレスや問題を抱えていたとしても、ああ大丈夫！自分はこれを解決する方法を知っている、そう感じます。誤解のないように加えますが、私は毎日快適に勤務しています。これはたとえ話。

医学的な理由は分かりませんが、体を動かすと心臓から血液がたくさん送りだされ、全身を巡って、体も脳もベストな状態になるからだと思っています。理由はとにかく健康になれるということです。

只見の暮らしは肉体的にハードですが、理屈抜きに生きている充実感があります。東京にいた時より人生をより楽しみたいと思うようになりました。それも単に長く生きるだけではなく、よりよく生きてみたいと思います。シンプルですが、これがウォーキングの理由です。もう一つ、ウォーキングは移住コーディネーターの資質に関連しています。もし、あなたが移住を考えていて、あなたの目の前にいる移住コーディネーターが、いかにも不健康に見えたら、彼(彼女)からいろいろと説明を受けた後、あなたはその土地に魅力を感じるでしょうか？

ということで、今日も移住コーディネーターは、役場の周りを歩いています。